

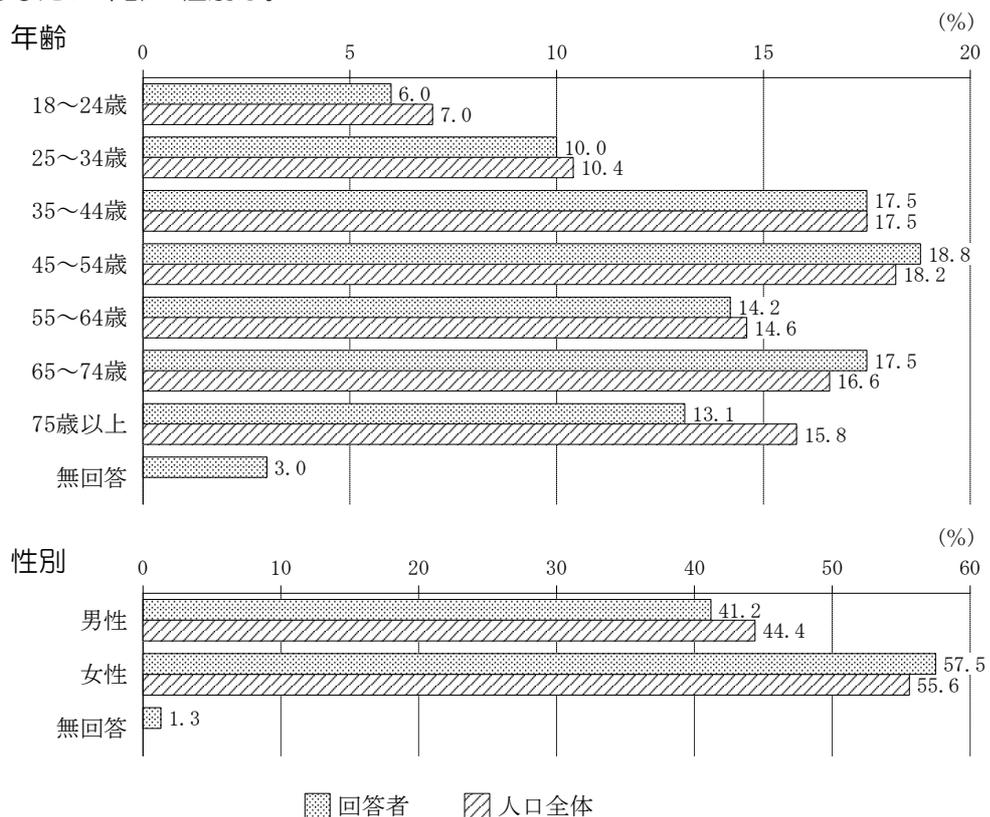
## 地域福祉に関する市民意識調査の結果（速報）

### 調査の実施概要

- 調査の対象者：平成28年2月1日現在の住民基本台帳から、18歳以上の市民3,000人を無作為に（※）抽出しました。  
（※）回答者の年齢構成を市民全体の割合に近づけるため、第2次計画策定時調査の年齢別の回収状況をふまえて年代ごとの抽出数を決めました。
- 調査の方法： 郵送で調査票の配付・回収を行う、自記式の質問紙法で実施しました。調査票は平成28年3月15日に発送し、3月31日を投函の締切としましたが、4月15日までに到着したものは有効として集計に加えました。
- 回収状況： 有効発送数は 2,982通（不達18通を除く）、有効回収通は 1,484通（白紙1通を除く）で、有効回収率 49.8%です。

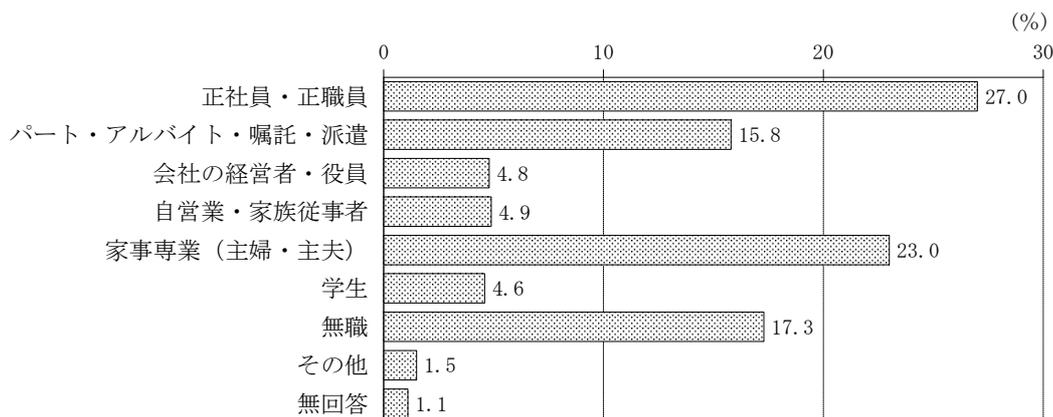
### 回答者の属性等について

問14-(1) あなたの年齢・性別は。



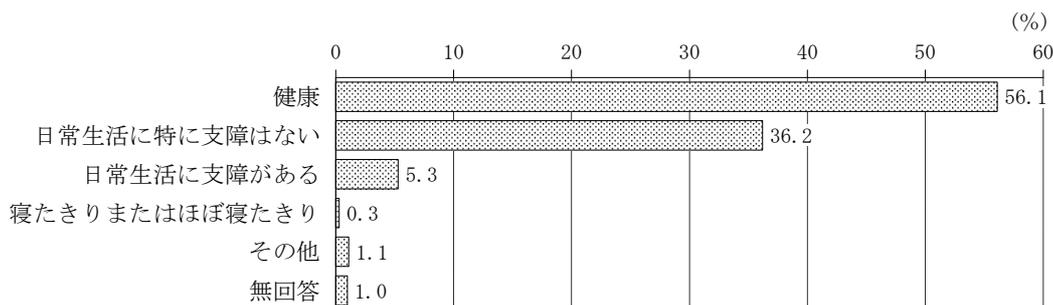
- ・対象者を抽出する際に年齢別の回収率を考慮したため、平成28年2月末の人口と比較して、回答者の年齢構成は、75歳以上の割合が低めである以外、それほど大きな差はありません。一方、性別は、回答者は女性の割合がやや高めです。
- ・年代ごとの性別割合をみると、いずれの年代も女性の割合が高めで、特に25～54歳では女性が6割以上となっています。

問14-(2) あなたのお仕事（職業）は。



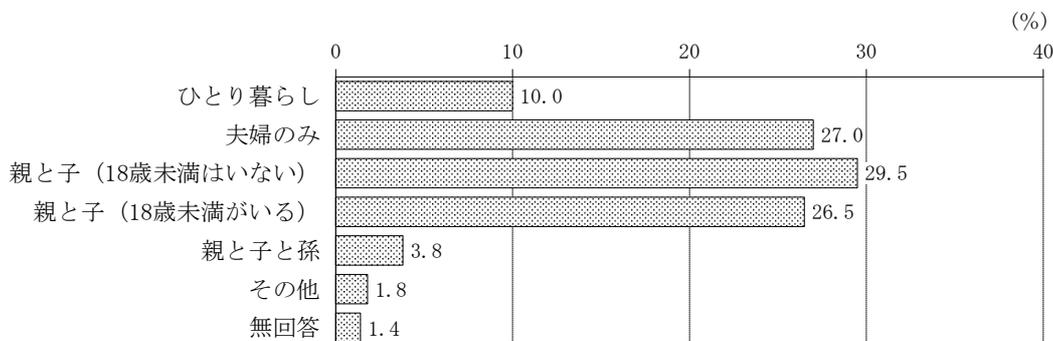
- ・有給の仕事に就いている人（正社員、パート等、経営者、自営業）は52.5%です（その他の1.5%は除いています）。
- ・65～74歳で有給の仕事に就いている人は28.6%、75歳以上では8.8%です。また、性別で見ると、男性は65.0%、女性は44.1%が有給の仕事に就いており、勤務形態は男性は正社員、女性はパート等が最も多くなっています。

問14-(3) あなたの健康状態は。



- ・9割強の人は健康面で日常生活に特に支障はありませんが、「日常生活に支障がある」人が5.3%、「寝たきりまたはほぼ寝たきり」の人が0.3%となっています。
- ・健康面で日常生活に支障がある人は各年代にいますが、65～74歳では7.3%、75歳以上では17.9%と割合が高くなっています。

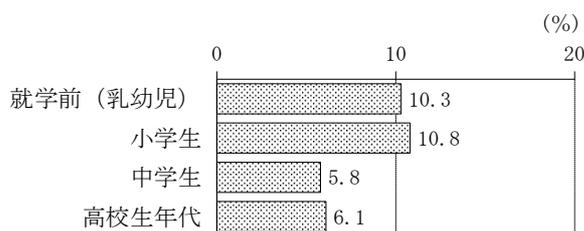
問14-(4) 同居されている家族構成は（二世帯住宅の場合も同居に含めてください）。



- ・親世代と子世代からなる二世帯世帯が56.0%、孫世代もいる三世帯世帯が3.8%、夫婦のみの世帯が27.0%、ひとり暮らしが10.0%となっています。

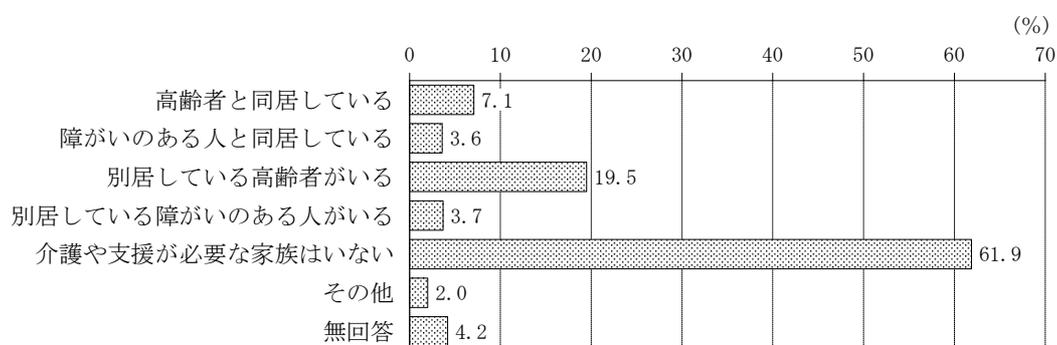
- ・65～74歳では夫婦のみの世帯とひとり暮らし世帯をあわせて62.5%、75歳以上では66.2%と、割合が高くなっています。

18歳未満の子どもがいる場合、年代は。(複数回答可)



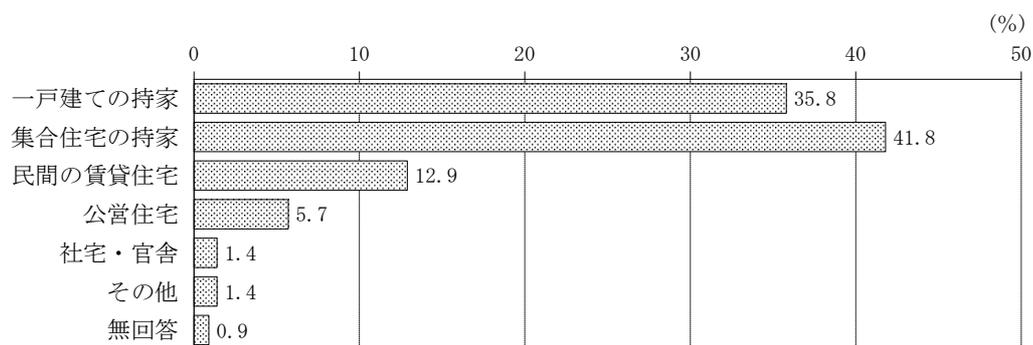
- ・18歳未満の子どもがいる世帯は4分の1強です。

問14-(5) あなたのご家族に、介護や日常生活の支援が必要な方がいますか。(複数回答可)



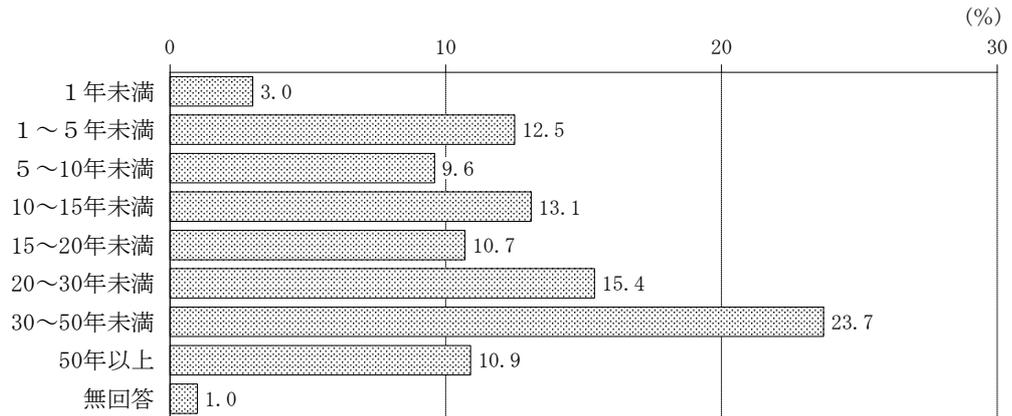
- ・3割以上が介護や支援が必要な高齢者や障がいのある人と同居または別居しています（本人が介護や支援が必要な場合も含みます）。
- ・75歳以上では高齢者と同居が17.4%、障がいのある人と同居が7.2%と割合が高くなっています。また、55～64歳で高齢者と同居が11.4%、別居が31.0%、45～54歳でも別居が30.1%と割合が高くなっています。

問14-(6) お住まいの形態は。



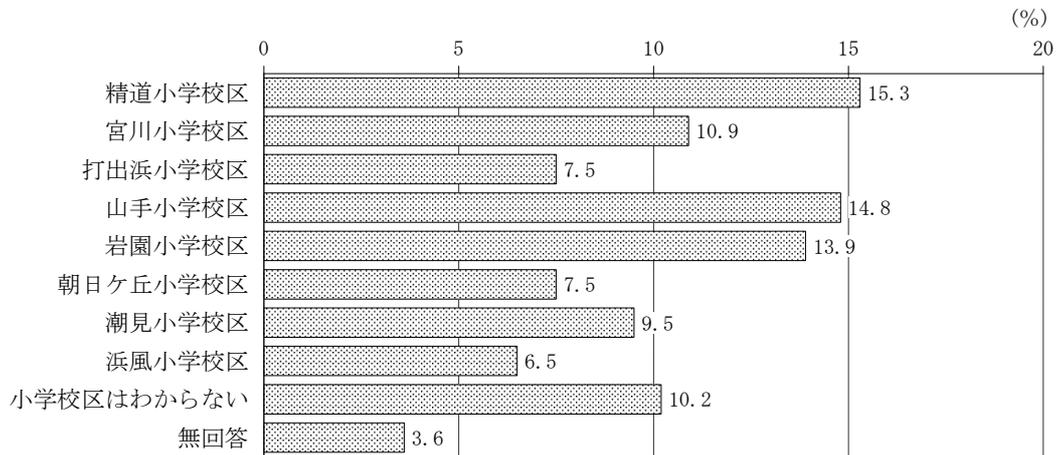
- ・持家が77.6%、借家が20.0%です。
- ・持家は集合住宅の方が一戸建てよりも多く、借家は住居の形態を質問していませんが集合住宅が多いと考えられるため、持家も含めて集合住宅が半数以上と推測されます。

問14-(7) 芦屋市に生まれてからの期間は。



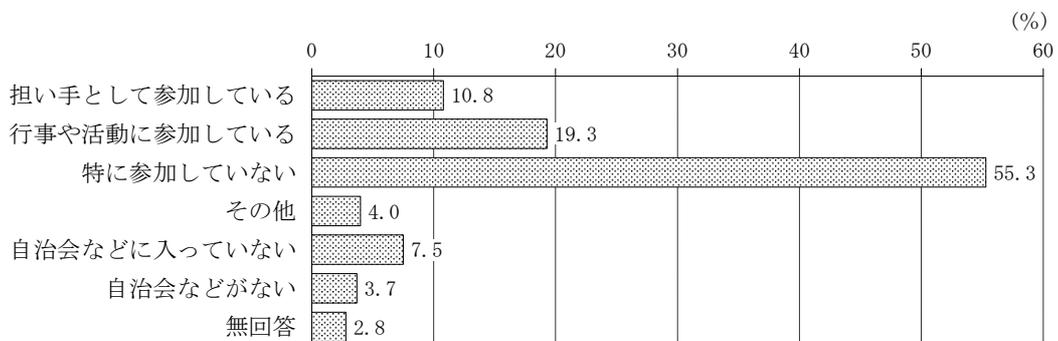
- ・阪神・淡路大震災以降に近い時期といえる20年未満の人が48.9%、それ以前の20年以上の人が50.0%とほぼ同じ割合となっています。

問14-(8) お住まいの小学校区は。



- ・小学校区はわからないと答えた人が10.2%で、男性の方が女性よりも6.1ポイント高くなっています。

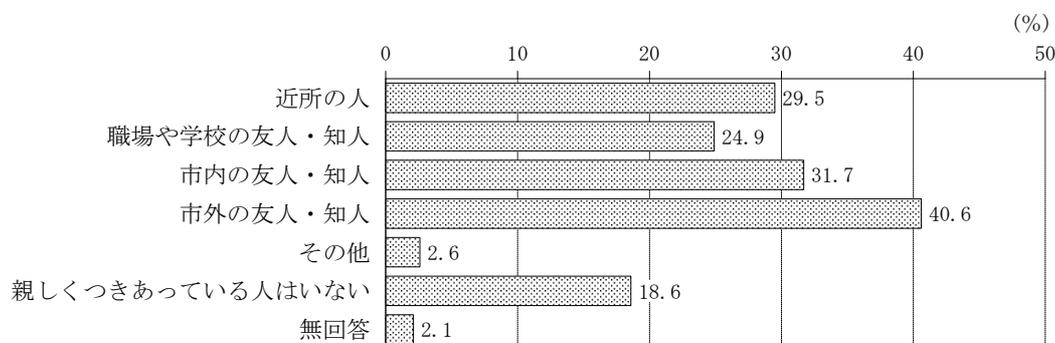
問14-(9) あなたは自治会・町内会の行事や活動に参加していますか（マンション等の管理組合が自治会的な活動をされている場合も含めてお答えください）。（複数回答可）



- ・担い手として参加している人が10.8%、参加者として参加している人が19.3%（うち3.2%は両方の立場で参加）となっています。

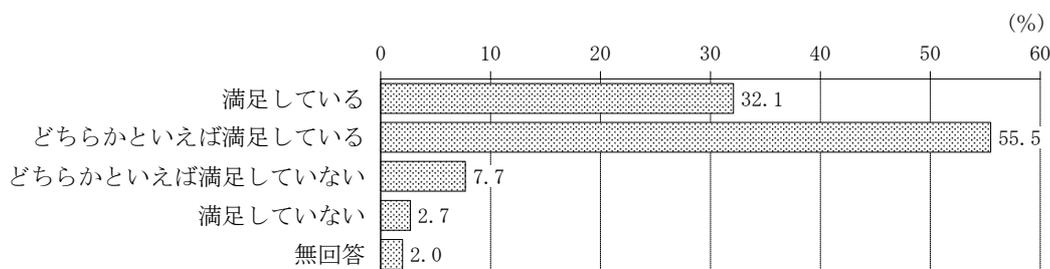
- ・担い手として参加している人は65歳以上で約15%、35～64歳で約1割ですが、それ以下の年代は少なく、参加者の立場での参加も少なくなっています。
- ・特に参加していない人は、男性の方が女性よりも7.1ポイント高くなっています。

問14-(10) あなたは、家族や親族以外で、親しくつきあったり、困ったときには助けあえる人がいますか。(複数回答可)



- ・近所に親しくつきあったり助けあえる人がいる人は29.5%です。一方、親しくつきあっている人はいない人が18.6%（無回答も 2.1%）となっています。
- ・「近所の人」は75歳以上では39.0%、65～74歳では35.1%があげていますが、18～24歳は13.5%にとどまっています。一方、75歳以上では親しくつきあっている人はいないと答えた人が24.1%（無回答も4.6%）と割合が高めです。
- ・女性は「近所の人」や「市内の友人・知人」をあげた人の割合が男性よりも高く、男性は親しくつきあっている人はいないと答えた人の割合が女性よりも12.0ポイント高くなっています。

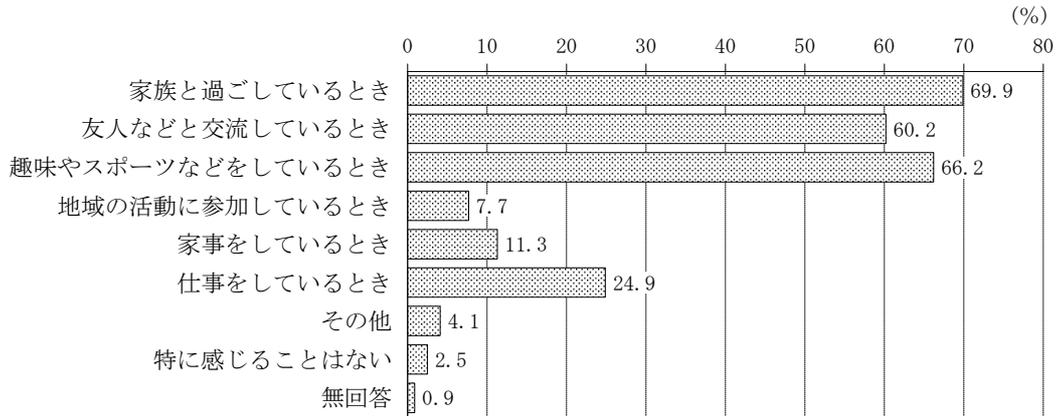
問14-(11) あなたは芦屋市での現在の生活全体について、満足していますか。



- ・「どちらかといえば」も含め9割弱は満足していると答えています。一方、「どちらかといえば満足していない」人は7.7%、「満足していない」人は2.7%となっています。
- ・25～34歳は「満足していない」人が6.1%で「どちらかといえば満足していない」人をあわせると14.7%となっています。19～24歳も「どちらかといえば満足していない」人が11.2%と割合が高めです。

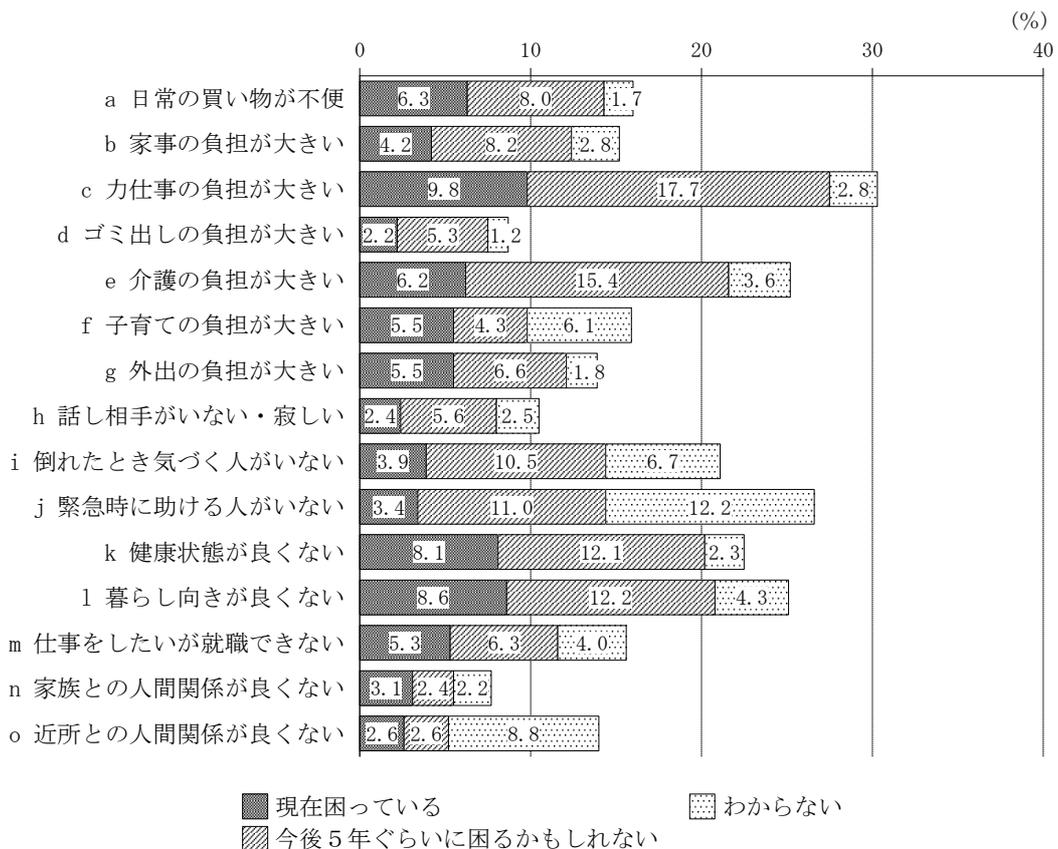
## 日常生活の状況や“困りごと”について

問1 あなたは、日常生活のどのようなときに楽しさや生きがいを感じますか。(複数回答可)



- ・ほとんどの回答者はなんらかの楽しさや生きがいを感じていますが、「特に感じることはない」人は2.5%（無回答も0.9%）となっています。
- ・75歳以上では「特に感じることはない」人5.1%（無回答も1.5%）と、割合がやや高めです。

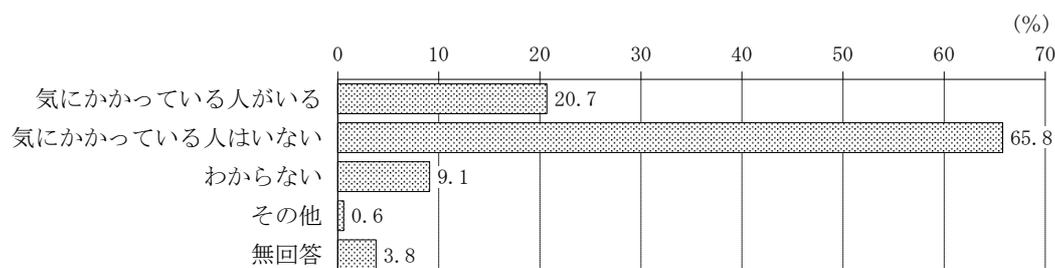
問2 あなたは、日常生活に関する以下のことについて、どのように感じていますか。



- ・【現在困っている】こととして「力仕事の負担が大きい」、「暮らし向きが良くない」、「健康状態が良くない」を比較的多くの人があげていますが、他にもさまざまな“困りごと”があることが示されています。

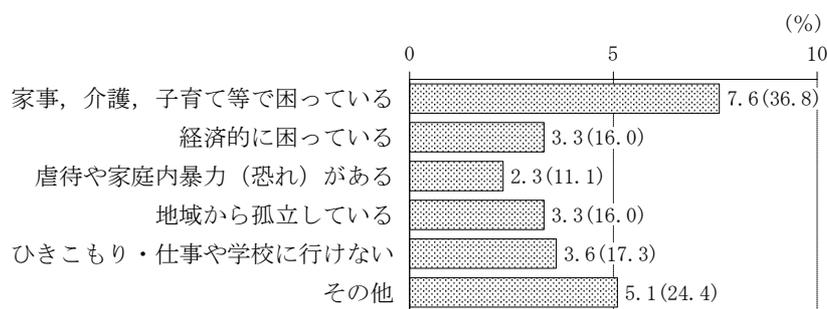
- ・75歳以上では「力仕事の負担が大きい」、「健康状態が良くない」、「外出の負担が大きい」、「介護の負担が大きい」など、健康や体力的なことに関連する困りごとが増加しています。また、35～44歳では「子育ての負担が大きい」、25～54歳の年代では「暮らし向きが良くない」など年代に応じた“困りごと”の傾向がみられます。なお、「日常の買い物が不便」は25～34歳で最も割合が高くなっています。
- ・【今後5年ぐらいの間に困るかもしれない】ことは、ほとんどの項目で、【現在困っている】よりも高い割合となっていますが、【現在困っている】との差が大きく、今後、多くのニーズが顕在化する可能性が高いと考えられるものは、「介護の負担が大きい」(9.2ポイント増)、「力仕事の負担が大きい」(7.9ポイント増)、「緊急時に助けてくれる人がいない」(7.6ポイント増)、「倒れたとき気づく人がいない」(6.6ポイント増)の順となっています。
- ・75歳以上では、これら以外でも「家事の負担が大きい」(14.9ポイント増)、「日常の買い物が不便」(11.8ポイント増)、「暮らし向きが良くない」(11.2ポイント増)、「ゴミ出しの負担が大きい」(9.7ポイント増)、「話し相手がいない・寂しい」(8.2%ポイント増)など多くの項目があげられています。また、【今後5年ぐらいの間に困るかもしれない】として、45～54歳で「介護の負担が大きい」、25～34歳では「子育ての負担が大きい」を比較的多くの人があげており、今後の不安として示されているようです。

問3 あなたは、家族や親族以外で、地域で気にかかっている人がいますか。



- ・「気にかかっている人がいる」人は20.7%となっていますが、気になる内容の記述から「迷惑を受けている人」なども含まれる可能性があります。
- ・「気にかかっている人がいる」人は18～24歳でも18.0%であるなど、年代による差はそれほど大きくありません。

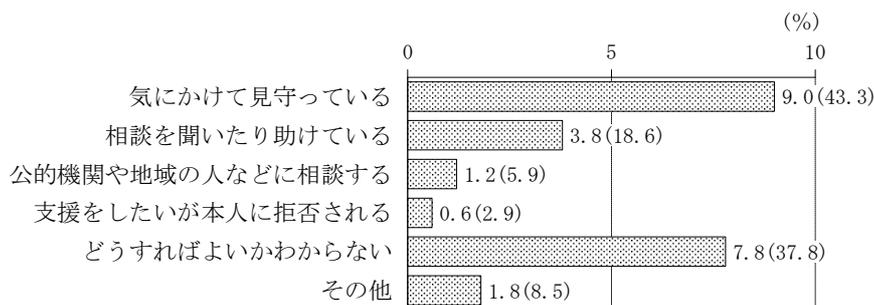
どのような人ですか。(複数回答可)



( ) は「気にかかっている人がいる」人での割合

- ・「家事、介護、子育てなどで困っている人」は25～34歳で10.1%、55～64歳で10.0%、「虐待や家庭内暴力(その恐れ)がある人」は18～24歳で5.6%と割合が高めで、年代によって気になることに違いがあることが伺えます。

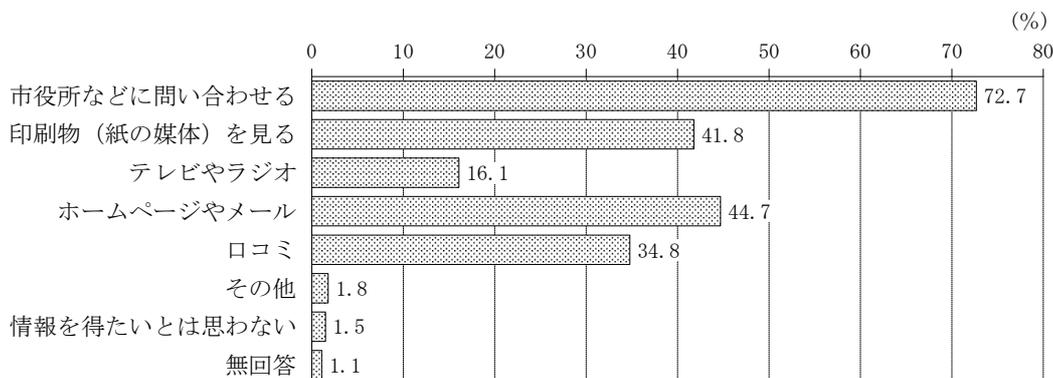
その人に対して、あなたは何か働きかけていますか。(複数回答可)



( ) は「気にかかっている人がいる」人での割合

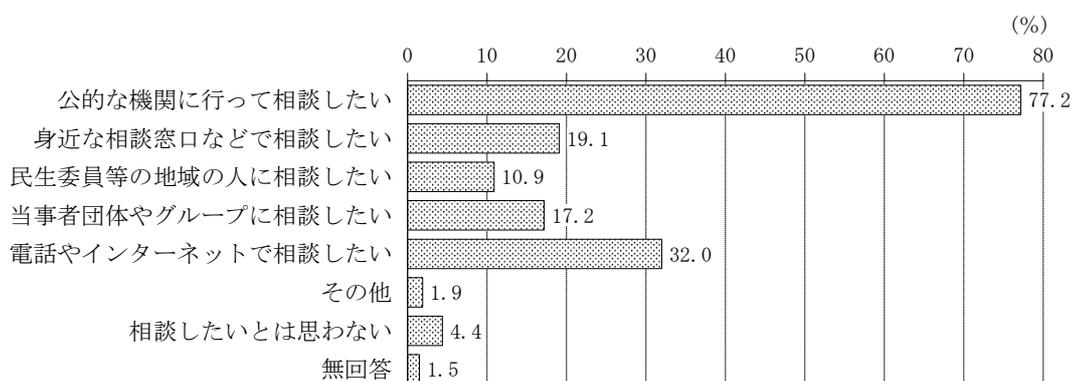
- ・「どうすればよいかわからないので特に何もしていない」と答えた人が7.8% (気にかかっている人がいる人の37.8%) で、特に、18～24歳では13.5% (気にかかっている人がいる人の75.0%) と割合が高めです。

問4 あなたは、福祉や介護、子育てなどで“困りごと”が起きたとき、適切な支援を受けるための情報をどのような方法で得たいと思いますか。(複数回答可)



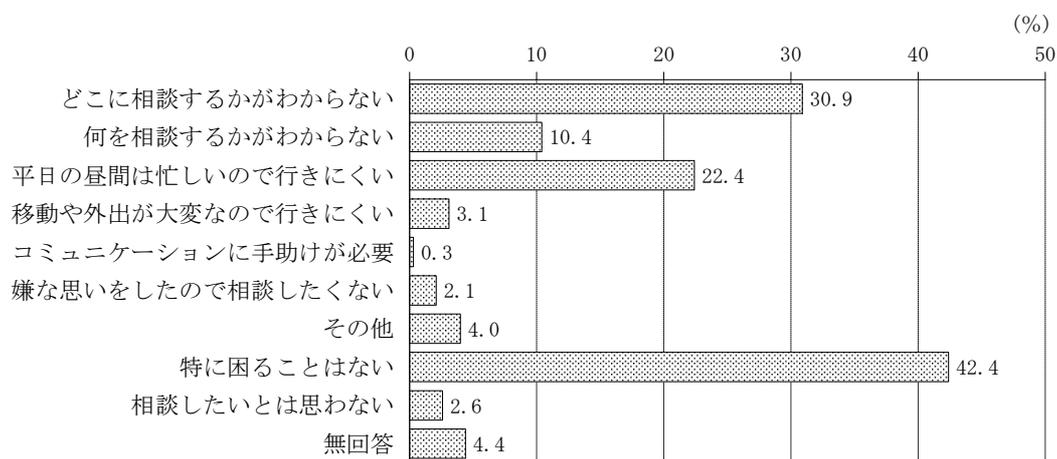
- ・「市役所や相談窓口、医療機関に問い合わせる」に次いで「ホームページやメール」が多く、若干ですが「広報紙、新聞等の印刷物」を上回っています。
- ・特に、「ホームページやメール」は18～34歳の年代では第1位ですが、65～74歳では16.6%、75歳以上では8.7%と、年代による差が大きくなっています。また、「口コミ」は年齢別では35～44歳、性別では女性で割合が高くなっています。

問5 あなたは、福祉や介護、子育てなどで“困りごと”が起きたとき、家族や知人以外では、まず、どのような方法で相談したいと思いますか。(複数回答可)



- ・「公的な機関に行って相談したい」を特に多くの方があげ、次いで「電話やインターネットで相談したい」となっています。
- ・35～44歳は「身近な相談窓口や施設などに行って相談したい」を28.8%、「当事者団体やグループに相談したい」を24.2%、75歳以上は「民生委員・児童委員などの地域の住民に相談したい」を17.4%の方があげ、他の年代よりも割合が高めです。

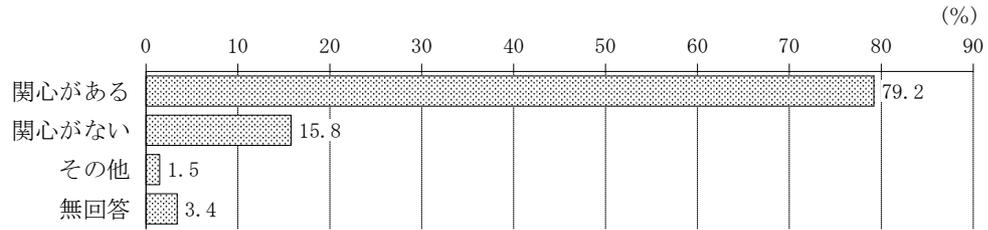
問6 あなたは、福祉や介護、子育てなどについて相談するとき、困ると思うことがありますか。  
(複数回答可)



- ・「どこに相談すればよいかかわからない」と答えた人が最も多く、「何を相談すればよいかかわからない」とあわせて相談につながるうえでの支障となっており、特に、54歳以下の世代で割合が高くなっています。また、25～64歳では「平日の昼間は忙しいので行きにくい」と答えた人が3割以上います。

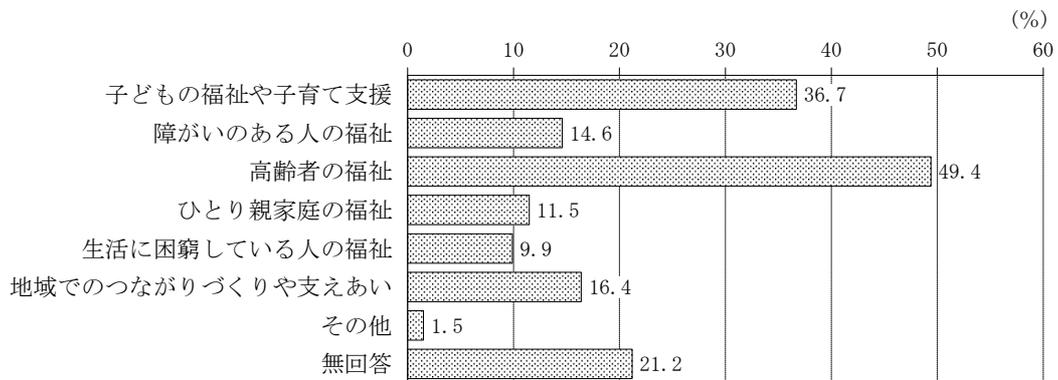
## 地域福祉への関心や参加について

問7 あなたは、福祉や介護・子育ての支援に関心がありますか。



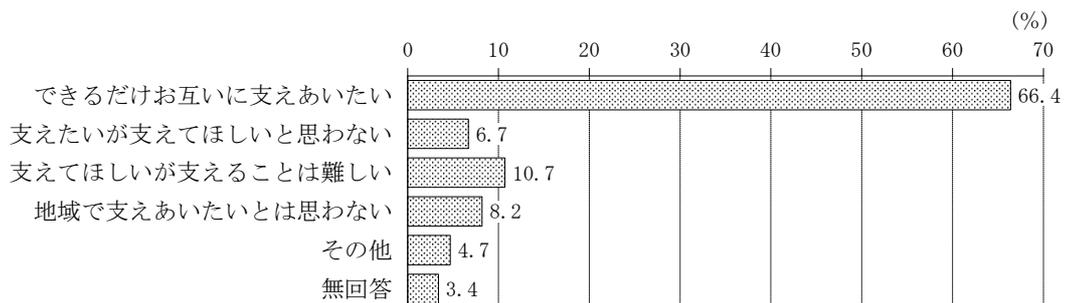
- ・いずれの年代も7割以上が「関心がある」と答えていますが、18～24歳は28.1%が「関心がない」と回答しており、割合が高めです。

どのようなテーマに関心がありますか。(複数回答可)



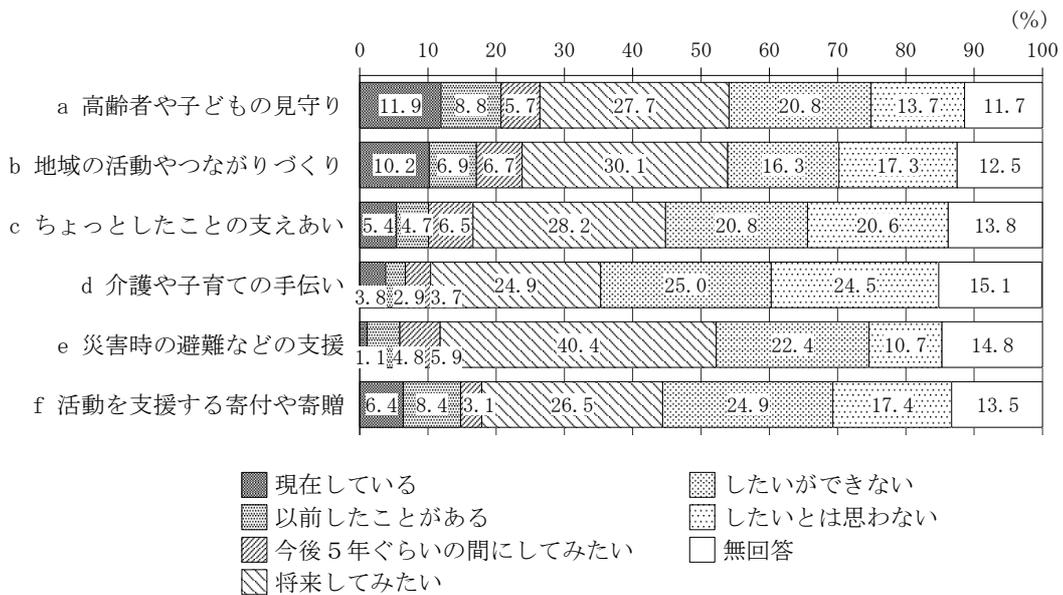
- ・「高齢者の福祉」をあげた人の割合は年代が上がるにつれて高くなり、75歳以上では68.7%となっています。また、「子どもの福祉や子育て支援」は25～44歳の年代で6割強の人が関心をもっています。一方、「地域でのつながりづくりや支えあい」は年代による差はあまり大きくありませんでした。

問8 あなたは、日常生活の困りごとを解決するために地域で支えあうことについて、どのように思いますか。



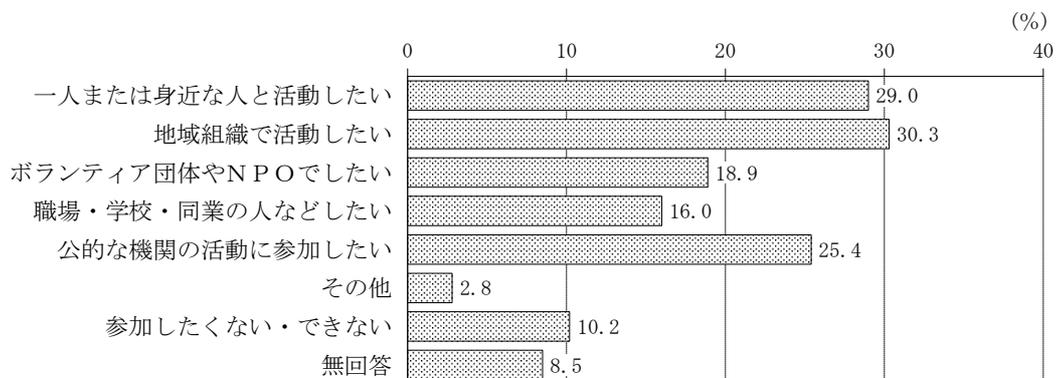
- ・83.8%の人が地域での支えあいを肯定していますが、そのなかにも「自分が支えてほしいとは思わない」人や、「自分が支えることは難しい」がいます。
- ・特に、75歳以上では「自分が支えることは難しい」と答えた人が21.0%になっています。また、25～34歳では「地域で支えあいたいとは思わない」と人が14.2%と、他の年代とくらべて割合が高めです。

問9 地域の福祉や子育て支援をすすめる活動のうち、あなたが行っているものや、今後、行いたいと思うものがありますか。(複数回答可)



- ・【現在している】こととして、約1割の人が「高齢者や子どもの見守り」と「地域の活動やつながりづくり」をあげています。
- ・【今後5年ぐらいの間に行いたい】こととして、「地域の活動やつながりづくり」とともに、「ちょっとしたことの支えあい」が比較的多くあげられています。一方、「災害時の避難などの支援」は【将来行いたい】こととして最も多くの人があげられています。
- ・いずれの活動も【現在している】人の割合は女性の方が高くなっていますが、今後の参加意向をもつ人は、ほとんどの活動で男性の割合が高くなっています。
- ・【今後5年ぐらいの間に行いたい】ことについて、18～35歳と55～64歳では「ちょっとしたことの支えあい」、35～54歳では「災害時の避難などの支援」、65歳以上では「地域の活動やつながりづくり」、75歳以上では「高齢者や子どもの見守り」が（それほど大きな差ではありませんが）第1位となっています。

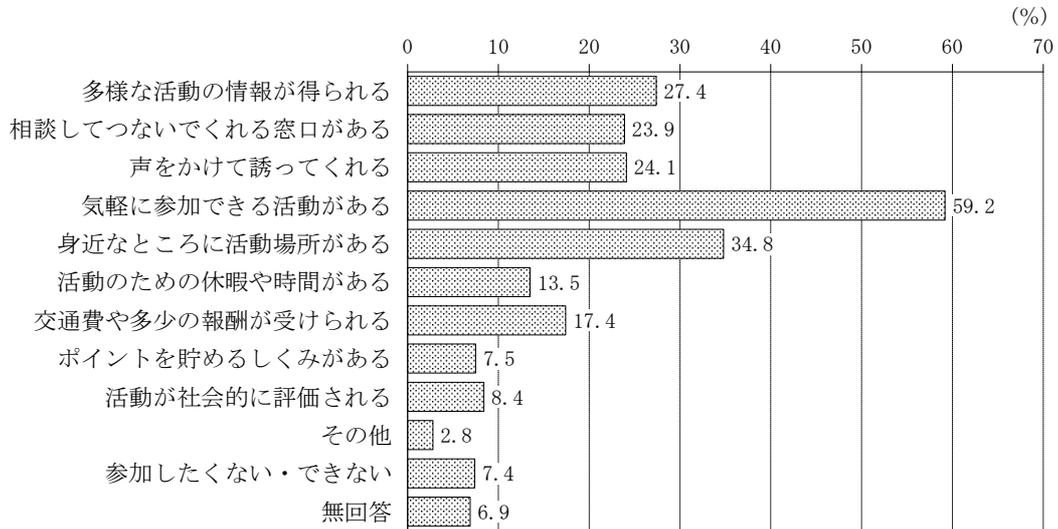
問10 あなたが問9のような活動をする場合、どのような方法でしたいと思いますか。現在されているものも含めてお答えください。(複数回答可)



- ・参加したい方法は多様ですが、18～24歳は「一人または身近な人といっしょに活動したい」が34.8%、「職場・学校・同業の人などと活動したい」が33.7%、45～54歳は「公的な機関が主導する活動に参加したい」が35.5%、65～74歳は「地域組織で活動したい」が36.7

%など、年代によって上位の項目にある程度の違いがみられます。また、「地域組織で活動したい」と答えた人のうち男性の割合が高めです。

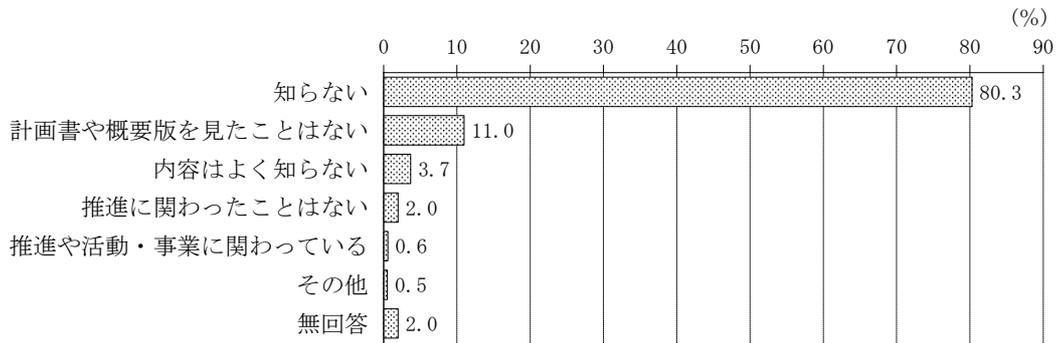
問11 あなたは、どのような支援や条件があれば、問9のような活動に参加しやすいと思いますか（現在参加している人は、より参加しやすいですか）。（複数回答可）



- ・「大きな負担がなく気軽に参加できる活動がある」を最も多くの人があげ、次いで「身近なところに活動できる場がある」と、身近な活動をあげた人が多くなっています。
- ・有償の活動については、「交通費や多少の報酬が受けられる」を17.4%、「お金で報酬を受け取る代わりにポイントを貯めるしくみがある」を7.5%の人があげており、18～44歳では「交通費や多少の報酬が受けられる」をあげた人が約25%と割合が高めです。
- ・18～24歳では「声をかけて誘ってくれる」が38.2%と他の年代と比較して高い割合になっています。また、34歳までの年代では「活動のための休暇や時間がある」をあげた人の割合も高めです。
- ・性別でみると、女性は「気軽に参加できる活動がある」の割合が男性よりもかなり高くなっています。

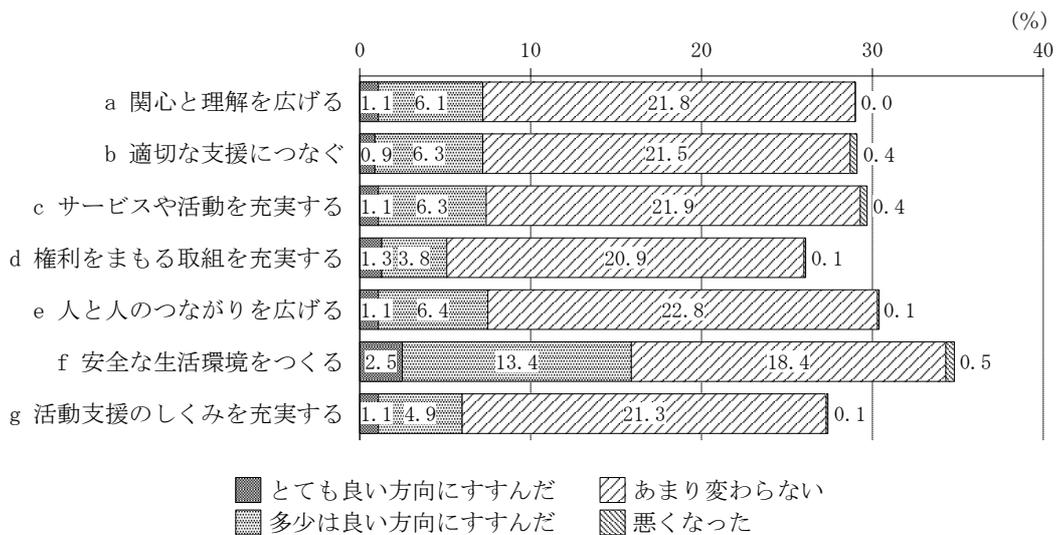
地域福祉計画に関する評価について

問12 芦屋市では「第2次芦屋市地域福祉計画」を平成24年3月に策定しましたが、あなたはこの計画を知っていますか。



- ・「知らない」が80.3%、「聞いたことはある」が11.0%などとなっており、計画内容を知っている人はごく少数という結果です。特に、18～24歳では「知らない」が91.0%であるなど、特に若い世代では認知度が低くなっています。
- ・「計画の推進や計画に基づく活動・事業に関わっている」人は0.6%でした。

問13 第2次芦屋市地域福祉計画は7つの推進目標を掲げています。計画が始まった時（平成24年4月）とくらべて、どのように変わったと思いますか。



- ・地域福祉計画の推進目標に関する状況の変化について市民としてどのように感じているかを尋ねましたが、前問（計画の認知度）と関連して「わからない」と回答した人が多かったと考えられます（上のグラフには「わからない」と無回答は記載していません）。
- ・「わからない」以外では、各項目とも「あまり変わらない」が多くなっています。そのなかで、「安心・安全でバリアのない生活環境をつくる」は、良い方向にすすんだと答えた人の割合が高めですが、「悪くなった」と答えた人も他の項目と比較して、多くなっています。